第31回 日本排尿機能学会　学術発展を誓い、復興の思い共有し風評払拭へ

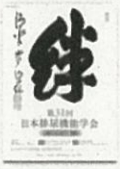
「絆」をメインテーマとする第31回日本排尿機能学会は9月5日から7日、郡山市のビッグパレットふくしまで開かれました。福島医大泌尿器科学講座が事務局、同講座の小島祥敬教授が会長を務め、全国の泌尿器科医ら約1，000人が参加。研究成果に関する講演やシンポジウムのほか、多彩なゲストを迎えての招請講演や鼎談（ていだん）などを繰り広げました。また、講演やパネル展示を通し、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故当時の状況や復興に向けた取り組みを発信しました。

開会式あいさつ

公立大学法人 福島県立医科大学 医学部泌尿器科学講座 教授
小島 祥敬氏

本学会のテーマは、東日本大震災が起きた2011年の「今年の漢字」である「絆」としました。本県は震災で、地震・津波・原発事故という未曽有の複合災害に見舞われました。

本学会の目的は、排尿機能に関する学術的討論はもちろん、震災・原発事故当時の本県の状況や、その後の復興の姿を全国から集まる会員の皆さまに共有していただき、風化・風評被害対策を図ることです。そして原発事故における人と人との絆、ダイバーシティ社会における絆、医師・看護師・メディカルスタッフの絆、国際的な絆など、絆をテーマとして人の温かみや優しさを共有することも目的としています。


第31回 日本排尿機能学会

題字は森貫主が揮毫（きごう）

本学会のポスターおよびパンフレットの「絆」の文字は、清水寺の森清範貫主に揮毫いただいたものを使用しました。

企画・制作／福島民報社 広告局

教育講演1　老化細胞を標的として加齢性疾患を改善する

演者　東京大学医科学研究所 所長　**中西 真氏**

座長　慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室　**大家 基嗣氏**

不老不死の生物や老化しない生物も

全人類が経験する生理学的な現象である老化は、ヒトの疾患の最も大きな危険因子の一つでもあります。例えば骨粗しょう症、糖尿病、がんなどは典型的な老年病です。もし我々が老化を克服できれば、我々はこれらの疾患から解放されるかもしれません。

高齢になるといつどんな病気になっても不思議ではなく、老化は「未病な状態」と捉えることができます。年齢別の三大疾患（がん、心疾患、脳血管疾患）罹患率は、50歳を境に指数関数的に増加します。その他の疾患の罹患率や死亡率もやはり50歳を境に急激に上昇し、ヒトの場合は50歳という年齢が非常に大きなターニングポイントとなっています。

ヒトの最大寿命は120歳程度と考えられていますが、クラゲの仲間であるヒドラの寿命は約1400年といわれ、ほぼ不老不死です。また、カメやトカゲ、ハダカデバネズミなどは加齢に伴って死亡率が上がらない、すなわち老化の速度が非常に遅いことがわかっています。さらにゾウは、年を取っても病気になりにくい生物です。

これまで老化は自然の摂理であり、避けられない現象だと考えられてきましたが、実はそうではなく、生物がそれぞれ発達させてきた現象だとわかってきたわけです。このことはとりもなおさず、ヒトも老化から解放される可能性があることを強く示しています。

また、老化しにくい生物、老年病になりにくい生物には、我々が加齢とともにためてしまう「老化細胞」をためない仕組みがあることがわかってきました。

老化への介入が究極の予防医学に

老化には遺伝因子と環境因子が関与していますが、環境因子の関与のほうが大きく、栄養状態や衛生状態の改善により、この70年間で15年から20年ほど老化が遅くなっています。いろいろな形で老化に介入可能だと、我々はすでに気付いているのです。

老化に介入することは、これからの医療にとって非常に重要です。冒頭で述べたとおり、老化はさまざまな疾患の最大の危険因子の一つです。老化に介入して予防できれば、それは究極の予防医学だといえます。

老化に介入することでどう疾患を予防できるのか、我々が福島医大泌尿器科と行った膀胱（ぼうこう）がんの研究を紹介します。膀胱がんは加齢に伴って増加する疾患であり、老化細胞の関与が考えられます。老齢のマウスの膀胱内の老化細胞を調べると、その半分が線維芽細胞であり、がん細胞の増殖を促進する遺伝子「CXCL12」を分泌させることが判明。マウスに膀胱がんの腫瘍を植え付け、膀胱内の老化細胞を取り除く実験をしたところ、腫瘍が小さくなり生存率も改善しました。

これをヒトに応用して、将来的には膀胱がんの予後判定に使ったり、あるいは膀胱内にある老化細胞を取り除くことで膀胱がんの発症を抑制できるかもしれません。膀胱がんだけではなく、さまざまな病気の予防につながる可能性があります。老化に介入することで、究極の予防医学を実現できるのではないかと考えています。

招請講演1　こころの姿

座長　公立大学法人 福島県立医科大学 医学部泌尿器科学講座 教授　**小島 祥敬氏**

演者　清水寺貫主　**森 清範氏**

心は全ての発信源である。それが、私が仏教を勉強してきたことの基本となっています。私が生きていると自覚するのも私の心、認識するのも納得するのも疑うのも私の心です。

4、5世紀のインドで心を研究した瑜伽行派（ゆがぎょうは）は、人間の心のことを「アーラヤシキ（阿頼耶識）」と説いました。アーラヤとはたくさん詰まっているという意味で、「蔵識（ぞうしき）」と訳されます。心の蔵には、我々の過去の経験の全てが入っているのです。

「隣人の心の奥の隠れ家に鬼も仏も我（われ）も住むなり」という古歌がありますが、心の蔵には平和も争いも、好きも嫌いも、本当も嘘（うそ）も、ありとあらゆるものが詰まっています。私たちはものを観るときに「私の蔵」を通して観ています。蔵の中身によって観ている世界が変わるので、少しでも良いものを蔵に入れておく必要があります。

鬼も仏もと言いますが、仏とは何か。涅槃（ねはん）経に「山川草木悉皆成仏（さんせんそうもくしっかいじょうぶつ）」という言葉があります。ありとあらゆるものが仏であるという意味です。全てのものが仏ということは、全てのものが命を持っているということ。仏と命は同じものなのです。

私は、仏教の根本思想は命の思想だと思っています。一切が仏、一切が生きている。こんなに尊く、こんなに普遍的で、こんなに平等なものはありません。

世界ではいまも戦争が行われ、このかけがえのない命を殺し合っています。戦争は人間の心の中で起きるものですから、我々は命の尊さをしっかりと認識し、心の中に平和のとりでを築く必要があると感じています。

講演の冒頭、「絆」の文字の揮毫を披露しました

絆講演1　変化を進化へ ― 建学150年福島医大の挑戦 ―

演者　公立大学法人 福島県立医科大学 理事長兼学長　**竹之下 誠一氏**

座長　九州大学泌尿器科／日本泌尿器科学会 理事長　**江藤 正俊氏**

世界の名画を通して本県の風評を払拭（ふっしょく）

本学は「ピンチをチャンスに、変化を進化に」をスローガンに掲げています。また、合言葉は「レジリエンス（しなやかさ）からアライアンス（連携）、そしてアジリティ（迅速に）」です。

本県の近代医療は、戊辰戦争の敗戦から始まりました。また、日本の災害医療は実は本県から始まっています。1888（明治21）年の磐梯山噴火の際、日本赤十字社によって日本初となる災害医療が行われたのです。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故以降、本学が力を入れてきたことの一つが風評被害対策です。2018年に福島市の県立美術館で展覧会「フェルメールとレンブラント～17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」が開催され、本学は特別協力という形で関わりました。実は、絵画は放射線に非常に弱いのです。世界の至宝であるメトロポリタン美術館やアムステルダム国立美術館のコレクションを本県で見られるということは、本県には放射線の影響がないことを最もわかりやすく伝えます。また、芸術作品で心身を癒やすアートセラピーを県民の皆さんに提供したいという思いもありました。

来年・再来年には同美術館で「ファン・ゴッホ展（仮題）」が開催される予定で、本学も実行委員会設立準備会に構成員として名を連ねています。今後も本学はアートを通して本県の復興の姿を広く発信し、風評払拭につなげたいと考えています。

福島の未来を拓（ひら）く世界最先端の研究

震災・原発事故後、本学は県民が必要とするもの、さらには世界が必要とするものを見据え、新たな組織・施設を多数設立しました。中でも「ふくしま国際医療科学センター」の「先端臨床研究センター」と「医療―産業トランスレーショナルリサーチ（TR）センター」では、世界最先端の研究を行っています。

先端臨床研究センターでは、アルファ線を放出する「アスタチン―211」という放射性核種をサイクロトロン（加速器）で製造することに成功しました。アスタチン―211はがん治療に利用でき、海外でも注目されています。

また、TRセンターでは新型コロナウイルス感染症の回復者から取得した「IgA抗体」を用い、ウイルスの体内への侵入を防ぐスプレーとマスクを開発しました。

さらに本学は福島国際研究教育機構（F―REI、エフレイ）と連携し、エフレイの研究分野である放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用、および原子力災害に関するデータや知見の集積・発信に取り組んでいます。これらは本学にしかできないことであり、本学が担うべき使命であると考え参画しました。廃炉作業に携わる人の被ばく医療で東京電力と連携協定を結ぶなど、すでにさまざまな面で社会実装しています。

本学の取り組みは福島の未来だけではなく世界の未来につながると肝に銘じ、レジリエンス、アライアンス、アジリティをキーワードに今後も日々邁進（まいしん）していく所存です。

鼎談　わが愛するFUKUSHIMA…そしてGIANTS

公立大学法人 福島県立医科大学 医学部泌尿器科学講座 教授　**小島 祥敬氏**

元プロ野球選手　**中畑 清氏**

フリーアナウンサー　**唐橋 ユミ氏**

軽妙なトークで会場を沸かせた中畑さん（中央）、唐橋さん、小島さん

矢吹町出身の中畑清さん、喜多方市出身の唐橋ユミさん、小島祥敬さんが多彩なトークを展開。3人のユーモアあふれる掛け合いに、会場は笑いに包まれました。

中畑さんは、現役時代の恩師・長嶋茂雄さんの金言を披露。「野球選手は失敗が避けられないが、ミスを引きずらず、いかに気持ちを切り替えるかがすごく大事。後ろを振り向かず常に前を向いている長嶋さんに、考え方、生き様を教わりました」と話し、「長嶋さんがいなかったら今の自分はない。最高の恩人です」と振り返りました。

また、矢吹町で開催されている中畑清旗争奪ソフトボール大会の20回大会に長嶋さん、40回大会に王貞治さんが参加して多くの観客が集まったことを挙げ、「矢吹町にも福島にも恩返しができたかな」と笑顔を見せました。

唐橋さんは幼い頃、実家のほまれ酒造に横綱北の湖関が来て一緒に写真を撮ったエピソードなどを披露しました。

招請講演2　超少子高齢化、人口減少、東京一極集中時代の女性が鍵となる日本の成長戦略

～Well-being、包括的安全保障の観点から～

座長　日本大学 泌尿器科／日本排尿機能学会 理事長　**高橋 悟氏**

演者　参議院議員、元内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全、少子化対策、男女共同参画）、元法務大臣　**森 まさこ氏**

私は、国際危機管理者協会（IAEM）が認定するエマージェンシーマネージャーという国際的な資格を日本人で初めて取得しています。以前その総会で基調講演を行ったのですが、出席していた会員の半分は女性でした。

日本では防災、防衛、外交、経済などは男性の得意分野だと考えられており、大臣もほぼ男性が務めています。しかし、防災であれ防衛であれ、どんな分野でも人口の半分を占めている女性、災害被害者になりやすい女性が意思決定プロセスに入ることが多様性であり、大事なことです。それによって組織が強靱（きょうじん）化していくのです。

人口減少の要因の一つである東京一極集中も問題です。海外では都市計画により魅力的で特徴的な地方都市がつくられていますが、日本は良い大学、就職先が東京に集中しており、地方の人がみんな東京に行ってしまいます。

また、男女平等とは言えない地方の現状も、女性が東京に流出する一因です。本県は若い女性の流出率が東北地方で最も高く、男性の2倍。女性の地方議員の数が少ないことも課題です。東京に行かなくても自分らしく生きられると女性たちが思えるよう、地方を変える必要があります。

会員懇親会　ハラミちゃん迎え和やかに

ピアニスト
ハラミちゃん

9月6日夜、郡山市のホテルハマツで会員懇親会が開かれ、参加者が交流を深めました。スペシャルゲストとして、ポップスピアニストのハラミちゃんが登場。同市ゆかりの男性4人組ボーカルグループ「GRe4N BOYZ（グリーンボーイズ）」のヒット曲を含むメドレーを即興で演奏するなど、華麗な音色で会場を盛り上げました。

一般社団法人 福島市医師会
会長 横田 崇
〒960-8002 福島市森合町10番1号 福島市保健福祉センター3階
TEL024-534-2290

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 福島赤十字病院
院長 鈴木 恭一
福島市八島町7-7 ☎(024)534-6101㈹
http://www.fukushima-med-jrc.jp

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部福島県済生会
済生会福島総合病院
院長 星野 豊
福島市大森字下原田25番地 ☎(024)544-5171㈹

公益財団法人 湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
郡山市駅前1丁目1-17
寿泉堂クリニック
郡山市駅前1丁目5-7

公立岩瀬病院
院長 土屋貴男
〒962-8503 須賀川市北町20番地
TEL0248-75-3111 FAX0248-73-2417
HP https://www.iwase-hp.jp/

救急指定病院
公立藤田総合病院
FUJITA GENERAL HOSPITAL
院長 近藤 祐一郎
国見町塚野目三本木14 ☎(024)585-2121㈹

泌尿器科・皮膚科・内科
北町丹治医院
KITAMACHI TANJI CLINIC
院長 丹治 進
〒960-8102 福島市北町3-39 TEL024-522-5911

医療法人 辰星会
枡記念病院
院長 太田 守
二本松市住吉100 ☎(0243)22-3100

一般財団法人
太田綜合病院
太田西ノ内病院
太田熱海病院

ときわ会
TOKIWAKAI GROUP
〒973-8403 福島県いわき市内郷綴町沼尻62 TEL0246-27-5522
http://www.tokiwa.or.jp

医療法人社団 ときわ会 日東病院
院長 中村 政宏
診療科目／内科・人工透析内科・糖尿病内科・消化器内科・循環器内科・外科・血管外科・泌尿器科・腎臓内科
〒963-8015 福島県郡山市細沼町3-11 TEL024-932-0164 http://www.tokiwa.or.jp

医療法人 正勝会
常磐 腎ひ尿器クリニック
理事長 胡口 正秀
〒972-8312 福島県いわき市常磐下船尾町古内292-6
TEL0246(43)1200

一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属
総合南東北病院
総長 渡邉一夫　理事長 渡邉貞義
名誉院長 寺西 寧　院長 紺野愼一
〒963-8563 郡山市八山田七丁目115 ☎(024)934-5322(代)
http://www.minamitohoku.or.jp
外来予約センター 0120-14-5420
南東北医療クリニック
南東北眼科クリニック
南東北がん陽子線治療センター
南東北BNCT研究センター

あたたかい心とたしかな医療
「総合医療センター」

地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院
一般財団法人 竹田健康財団 竹田綜合病院
会津若松市山鹿町3番27号 ☎(0242)27-5511(代) HP http://www.takeda.or.jp

救急告示病院・地域災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・脳卒中センター
南相馬市立総合病院
院長 及川 友好
住所:南相馬市原町区高見町2−54−6 ☎(0244)22−3181㈹
mail:sogo-hp@city.minamisoma.lg.jp
“人”に寄り添い、“人”に信頼され、地域の未来へともに笑顔で歩む病院を目指します。